



新潟市の一般介護予防事業の取り組み ～地域の茶の間を中心として～

令和元年7月3日(水)

新潟市福祉部地域包括ケア推進課

課長 関 智雄

新潟市の概要

面積

726.45km²

行政区数

8行政区

人口(令和元年5月末現在)

790,459人

日常生活圏域

29圏域

高齢者人口(平成30年5月末現在)

225,919人

圏域別 最多 15,270人 最少 2,343人

高齢化率(平成30年5月末現在)

28.6%(全市)

圏域別 最高 36.5% 最低 21.5%



新潟市の一般介護予防事業(地域の茶の間除く)

○にいがたし 元気力アップサポーター制度

高齢者が、介護保険施設などで、お茶出しのお手伝いや施設入居者とのお話、囲碁や将棋の相手などのサポート活動を行い、社会参加・介護予防を推進する事業。

○認知症予防出前講座

認知症予防に関する研修を受けた運動普及推進委員が、講師となって、出前講座を実施。運動普及推進委員自身の社会参加や介護予防にもつながっている。



○フレイル予防事業

東京大学高齢社会総合研究機構が開発した「フレイルチェック」を一部地域でモデル実施を開始。「フレイルチェック」により自身の状態が見える化し、生活習慣改善への行動変容を促す。高齢者がサポーターとして参加することで、生きがいづくりや社会参加、介護予防にもつながっていくことも期待しています。

○総おどり体操

本市の踊り文化を生かしパパイヤ鈴木さんが振付を監修・考案したオリジナル体操です。閉じこもり予防や社会参加のきっかけ、多世代交流も期待しています。

「地域の茶の間」とは

子どもから高齢者まで、
障がいの有無や国籍など
を問わず、誰でも参加できる場



人と人との知り合い、
お互いの不自由を知り、
自然な助け合いが生まれる場

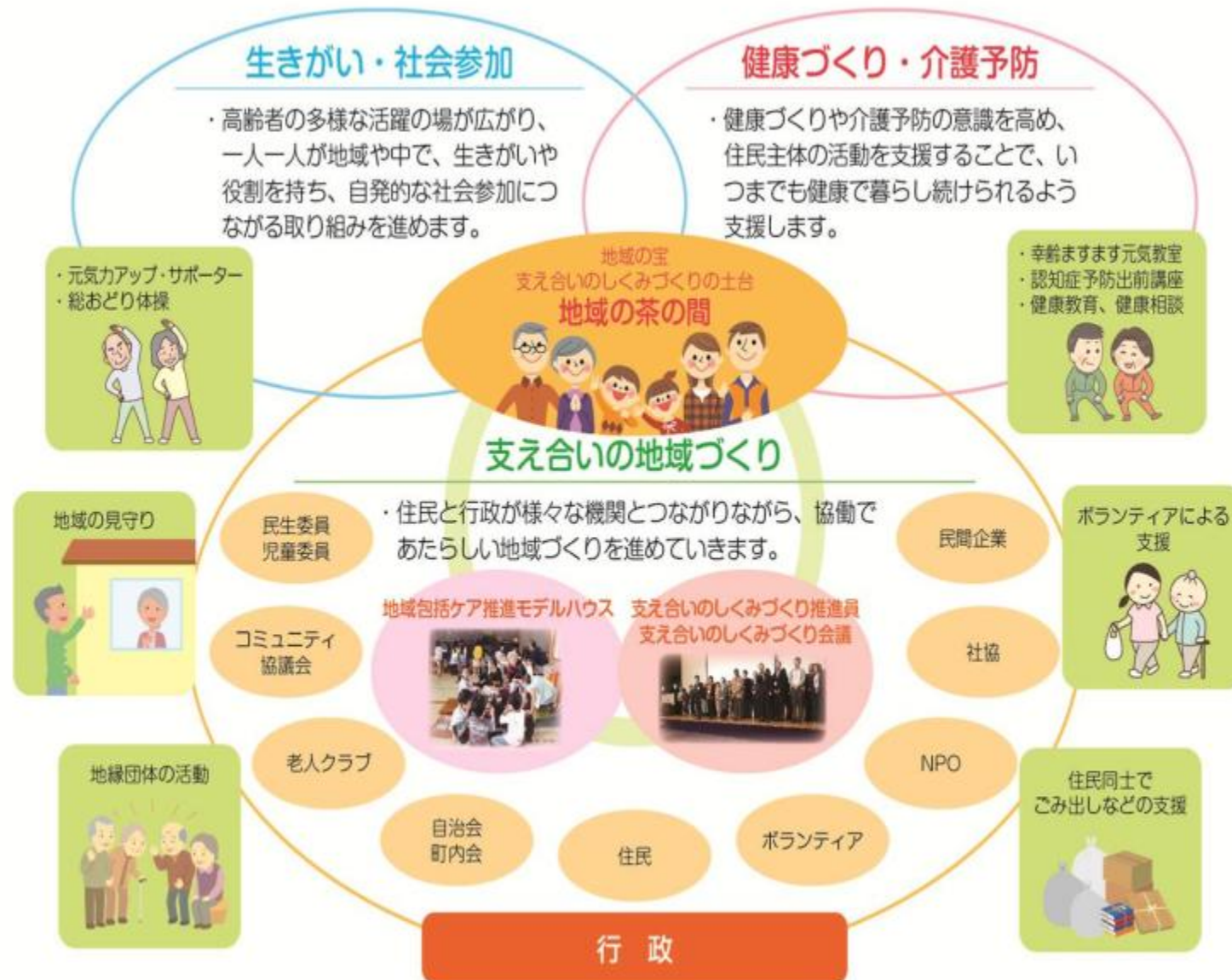


それぞれの人の役割を引き出し、
生きがいが生まれる場



ほかにも、さまざまな効果が期待されます…

生活支援・介護予防の推進



地域の茶の間の推進の課題

○参加者の固定化・減少（確保）

- ・立ち上げから数年が経ち、参加者が固定化している地域の茶の間もみられる。
- ・参加者の固定化・グループ化により、新規の参加者が参加しにくい場となる。
- ・イベントがメインの地域の茶の間では、イベントがないと参加者が少なくなる。

○運営スタッフの確保

- ・運営スタッフの高齢化などにより、地域の茶の間の運営が困難となっている団体もみられる。
- ・毎回プログラムなどを開催する地域の茶の間は、運営スタッフが疲弊する。

地域包括ケア推進モデルハウス『実家の茶の間・紫竹』

新潟市 地域包括ケア推進モデルハウスとは

子どもからお年寄りまで、市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの実現を目指し、支え合いのしくみづくりをすすめるための拠点として設置。

実家の茶の間・紫竹

市が空き家を借上げ、任意団体「実家の茶の間」との協働運営で開設している。「地域の茶の間」創設者 河田珪子氏のノウハウを継承・波及していく本市の地域包括ケアシステム構築の要（かなめ）。

利用料金： 300円 ＋ 昼食代300円

主な役割分担

実家の茶の間	新潟市
・（運営に係る経費も含め）運営全般 利用料・賛助会費・バザー売上等で賄っている。	・家賃，光熱水費，電話料 を負担



「地域の茶の間」創設者
支え合いのしくみづくりアドバイザー
河田 珪子 氏



実家の茶の間・紫竹

地域包括ケア推進モデルハウス『実家の茶の間・紫竹』

社会参加



多世代交流



生きがい



役割・出番



どなたが来られても
「あの人だね!!」という
目をしない。

プライバシーを
訊き出ない。

その場に
いない人の
話をしない
(ほめる事も含めて)

専門職の関わり(保健との連携)



相談・アドバイス

参加者が希望する生活の実現を支援するため、保健師・作業療法士などの「専門職を派遣し、相談・アドバイス」

実家の茶の間・紫竹へ
おじゃまします♡

【平成27年度 日程】
毎月第3水曜日 午前10:00~11:30

東区健康福祉課	包括支援センター 石山
平成27年 4月15日	5月20日
6月17日	7月15日
8月19日	9月16日
10月21日	11月18日
12月16日	1月20日
平成28年 2月17日	3月1日

♡ここから、くらしの相談ができます。
♡お気軽にご相談ください。

連絡・お問い合わせ先
東区健康福祉課 地域保健福祉担当 025-250-XXXX
地域包括支援センター 石山 025-277-XXXX



助け合いの広がり

参加券を助け合いのチケットに… 「実家の手」



ズボンの裾直し
のお礼に。

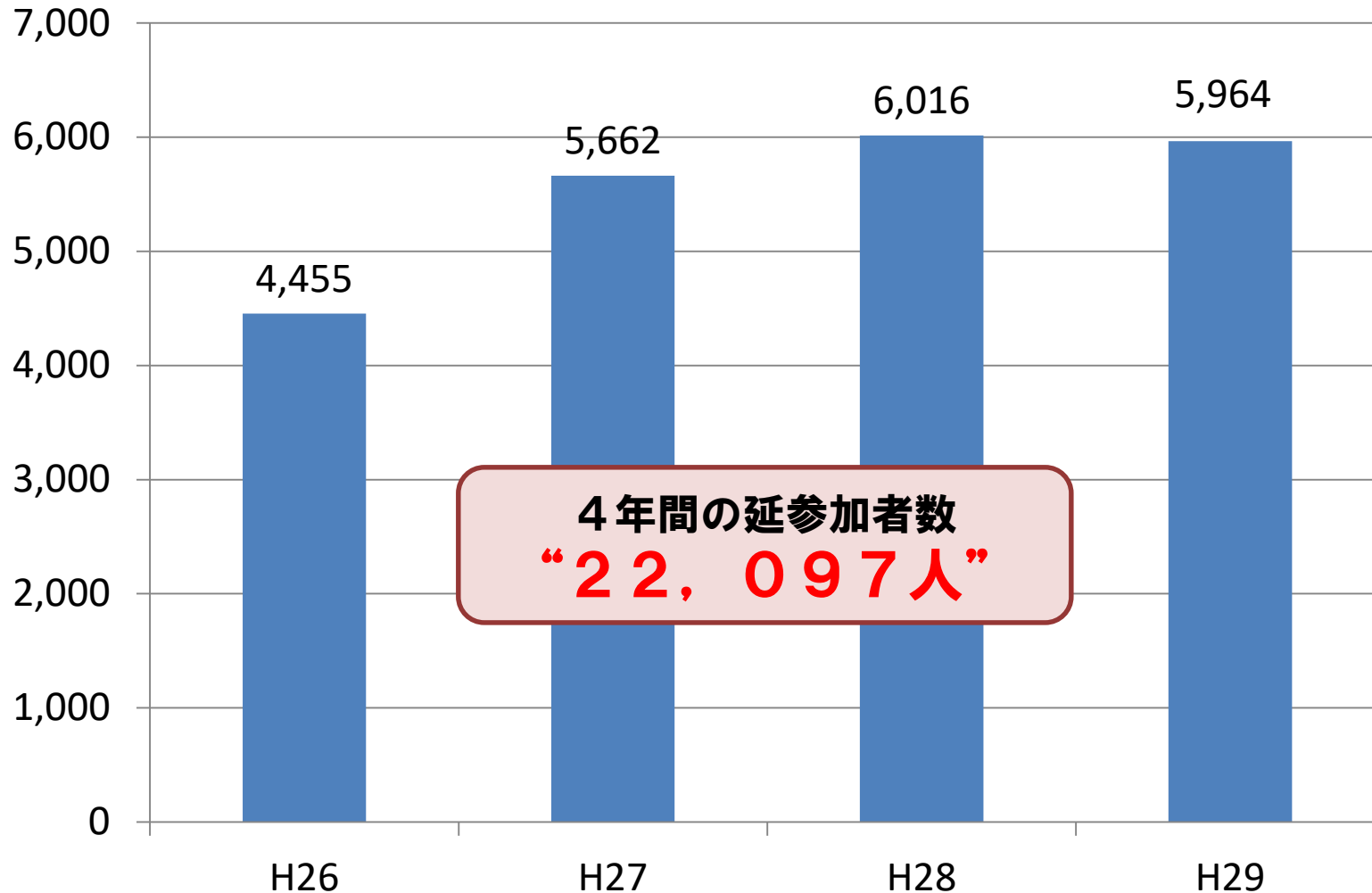
車に乗せて
もらったお礼として
渡しました！

仲介役のコーディネーターの必要もなく、
互いに助け合える関係が生まれはじめている。

「実家の茶の間・紫竹」利用者人数

参加者数の推移

事業年度：10月～9月



4年間
視察等
団体数

844
団体

地域包括ケア推進モデルハウスの全区への展開



【中央区】
Café&pub Wrap au Tagai:ni



【新潟市】実家の茶の間・紫竹



【中央区】しもまち笑顔の家



【西区】
西坂井団地憩いの茶の間

【西蒲区】にしかんの茶の間



【南区】
南区地域の茶の間天昌堂サロン

【秋葉区】
まちの茶の間だんだん嶋岡



【北区】松浜こらぼ家

【江南区】
江南区地域の茶の間お～うん



茶の間の学校

趣旨

地域の茶の間の理念や立ち上げや運営の方法を学ぶ

講師

地域の茶の間創設者 河田 瑠子 氏
(実家の茶の間メンバー)

内容

- 地域の茶の間の理念, 必要性, 立ち上げ方, 運営方法などの講義
- 「実家の茶の間・紫竹」での実習

開催回数・参加者数

- 平成28年度～ 年2回 計6回 開催
- 参加者数 172名



地域の茶の間への支援

- 地域包括ケア推進モデルハウスの設置
- 茶の間の学校の開催
- 支え合いのしくみづくり推進員による相談
- 地域の茶の間への補助金

地域の茶の間への補助メニュー

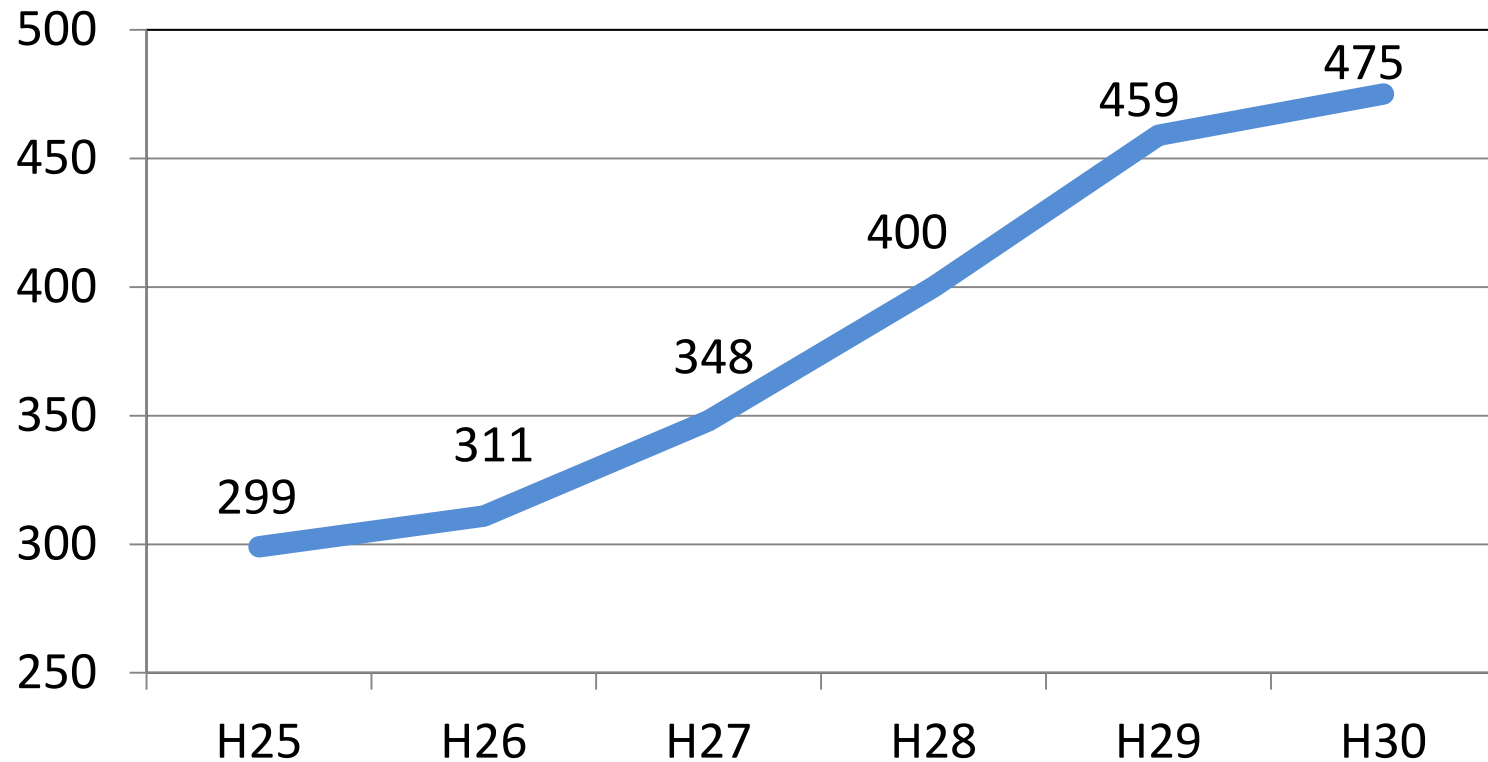
事業名	開催頻度	年間補助上限額
地域包括ケア推進モデルハウス事業	週2回以上	運営費 804千円
地域の茶の間支援事業 ※月1回, 月2回以上は一般会計予算より支出	週1回以上	運営費 240千円 初年度のみ 初期費用200千円
	月2回以上	運営費 60千円
	月1回	運営費 30千円

地域の茶の間設置数及び推移

新潟市における設置個所数（H30年度補助金等実績のみ）

開催頻度	月1回	月2回以上	週1回以上	週2回以上	合計
箇所数	365	36	65	9	475

地域の茶の間設置数推移（補助金等実績より）



取組みを進める上でご考慮いただきたい事項

住民主体の運営

○「地域の茶の間」の運営で必要な情報

⇒ 氏名と参加料の把握で足りる。

⇒ 行政の依頼による必ずしも必要のない個人情報収集

⇒ 不要な個人情報の保有・管理。



年齢別，介護度別の参加者の把握が困難

地域の茶の間の今後の方向性・可能性

- ① 子どもから高齢者まで障がいの有無に関わらず誰もが気軽に集まり交流することができる地域の居場所
- ② 地域の茶の間から生まれる自然な助け合い(チケットを通じた助け合いなど)の広がり



- ①「子ども食堂」や「認知症カフェ」を包含する居場所
- ②住民が主体の生活支援

**地域共生社会づくりの土台
訪問型生活支援の拠点**





ご清聴ありがとうございました